【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2004-84139(P2004-84139A)
【公開日】平成16年3月18日(2004.3.18)
【年通号数】公開・登録公報2004-011
【出願番号】特願2002-249516(P2002-249516)
【国際特許分類第７版】
　Ｄ０１Ｆ　8/02
　Ｄ０１Ｆ　8/14
　Ｄ０６Ｍ　11/38
【ＦＩ】
　Ｄ０１Ｆ　8/02
　Ｄ０１Ｆ　8/14　Ｚ
　Ｄ０６Ｍ　9/02　Ｃ
　Ｄ０６Ｍ　9/04

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月19日(2005.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アルカリ性の熱水に溶解可能な熱可塑性重合体を海成分とし、セルロースエステルと可塑剤を含む組成物を島成分とする海島型の複合繊維であって、島成分が繊維軸方向に連続相を形成してなることを特徴とする海島複合繊維。
【請求項２】
海成分／島成分の複合比率が５／９５～７０／３０であり、かつ該海成分を除去した後の島成分の単糸繊度が０．０１～１ｄｔｅｘであることを特徴とする請求項１記載の海島複合繊維。
【請求項３】
島成分数が３～２００であることを特徴とする請求項１または２記載の海島複合繊維。
【請求項４】
セルロースエステルがセルロースアセテートプロピオネート、セルロースアセテートブチレート、セルロースアセテートフタレートからなる群から選ばれる少なくとも1種を含んでなることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項記載の海島複合繊維。
【請求項５】
島成分を構成する組成物における可塑剤含有量が、組成物重量に対して１～３０重量％である請求項１～４のいずれか１項記載の海島複合繊維。
【請求項６】
アルカリ性の熱水に溶解可能な熱可塑性重合体がポリ乳酸であることを特徴とする請求項１～５記載のいずれか１項記載の海島複合繊維。
【請求項７】
請求項１～６のいずれか１項記載の海島複合繊維を少なくとも一部に用いてなることを特徴とする布帛。
【請求項８】

セルロースアセテートプロピオネートおよび／またはセルロースアセテートブチレートを主成分とする繊維であって、単糸繊度が０．０１～１ｄｔｅｘであることを特徴とするセルロースエステル系極細糸。

【請求項９】

請求項８記載のセルロースエステル系極細糸を少なくとも一部に用いてなることを特徴とする布帛。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、溶脱処理によってセルロースエステル系極細フィラメントを製造することができる海島型の複合繊維、極細糸およびこれを用いてなる繊編物に関する。更に詳しくは、風合い、特にソフト感に優れたセルロースエステル系極細糸を製造することができる海島型の複合繊維、極細糸およびこれを用いてなる繊編物に関する。